

グループホームきくまの家 運営推進会議

令和7年度 第2回
2025年7月30日

グループホームきくまの家 基本理念

- ①ひとりひとりの生活の【気持ち】と【動き】を専門職として気付き、有する能力を最大限に活かすことができる環境づくりや調整を行い“できること”の継続を実践します。
- ②買い物、お祭り、清掃活動などで【地域とのかかわり】を持ち続け1人の住民として、地元へ貢献していくことを支えます。
- ③入居した後の、家族や友人との関係を続けられるように支援します。

【入居状況】

令和 7 年 7 月 30 日 水曜日

入居者数 1階 (9 名) 男性 (3 名) 女性 (6 名)

2階 (9 名) 男性 (2 名) 女性 (7 名)

介護度 要介護 1 (3 名) 要介護 2 (6 名) 要介護 3 (8 名)

要介護 4 (0 名) 要介護 5 (1 名) 要支援 2 (0 名)

平均介護度 全体 2.4 1 階 2.1 2 階 2.8

**認知症高齢者の
日常生活自立度**

I (0 名) IV (2 名) M (0 名)

II (0 名) II a (2 名) II b (2 名)

III (0 名) III a (11 名) III b (1 名)

全員 平均 (85.4 歳) 最年少 (75 歳) 最年長 (96 歳)

年齢 女性 平均 (85.4 歳) 最年少 (75 歳) 最年長 (94 歳)

男性 平均 (85.4 歳) 最年少 (79 歳) 最年長 (96 歳)

- ・ 在籍日数 最長1928日 最短86日 平均1034日
- ・ R7年6月の稼働率100% R7年7月の稼働率100%

R2年4月～R7年7月までの入居者数

- ・ 自宅から 18 名
- ・ 高齢者施設から 11 名 **合計**
- ・ 医療機関から 2 名 **31名**

R2年4月～R7年7月までの退居者数

- ・ ホームでお看取り 4 名
- ・ 入院先でご逝去 3 名 **合計**
- ・ 高齢者施設へ 4 名 **13名**
- ・ 医療機関へ 2 名

【職員状況】

令和 7 年 7 月 30 日 水曜日

- ・ 介護職員23名 常勤換算16.3人
- ・ 開設から～R7年3月29日までの
- ・ R7年4月1日～R8年3月29日までの
- ・ 入職 41 名
- ・ 退職 18 名
- ・ 入職 2 名
- ・ 退職 2 名

【身体拘束廃止について】

- ・ コロナウィルス感染拡大を防ぐ目的で居室施錠を検討しましたが、構造錠施錠ができなかったためセンサー対応。

センサー使用状況

1階：玄関、廊下、102、106、107 （一時的に、101、103、108）8ヶ所使用

2階：廊下、トイレ、206①206②、211 5ヶ所使用

ちくまの家 の日常



光徳寺
紫陽花



消防訓練



認知症高齢者グループホーム等における
防火安全対策

企画制作 財団法人日本防火研究普及協会
監修 認知症高齢者グループホーム等における防火安全対策WG制作委員会
制作 株式会社 アイネット
©2018. 財団法人防火研究センター及び 財団法人防火協会の協力を得て作成されたものです





1階





1階



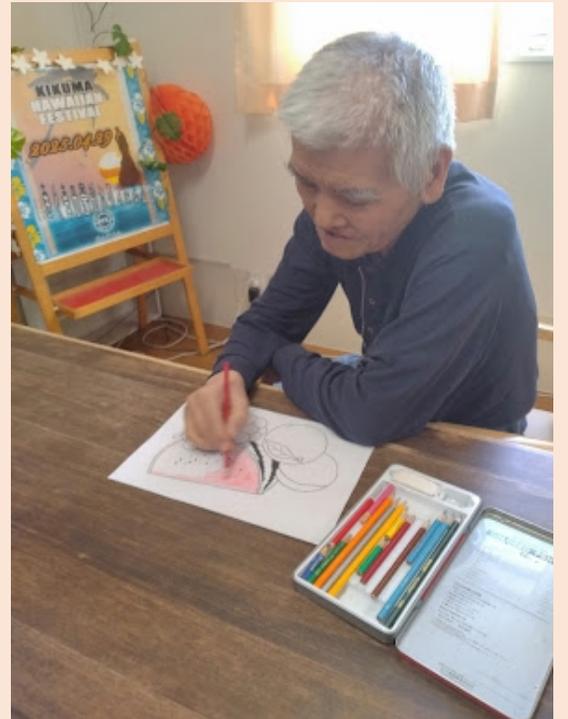
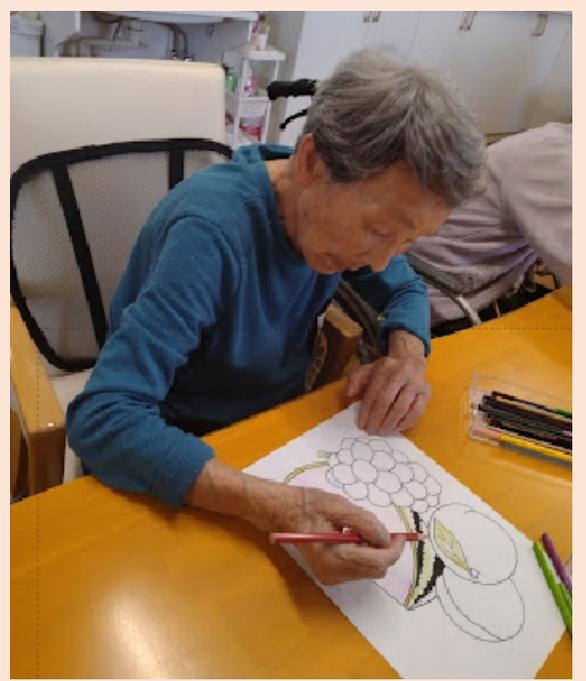
1階



2階



2階





2階

【虐待防止委員会より】

- ・7月20日～の新しい3ヶ月目標

【メインテーマ】

- ・会社の基準①～③を改めて読み込み、全員の共通認識とするために、各ホームで行うことを決める

【サブテーマ】

- ・会社の基準①～③と違う場面に気が付いた時、委員や管理者は『何かの合図』でさりげなく伝える（合図は物、言葉、ジェスチャーなど何でも良い）
- ・様々なホームを回る職員（部長職や居宅）は、ホームの職員に対して感じたことを管理者や委員に伝えたり、回った職員自身を、管理者や委員から客観的に感じたことを聞いてみる
- ・基準との違いを伝えることが難しい場合には、基準通りに行っている場面や、良いと感じた場面に対して「今の関わり方良いですね」と伝えたり、様々な協力の場面で「ありがとうございます」と伝えることが習慣となることを目指す。

【感染症状況について】

- ・ 7/11～7/20 コロナウィルス感染により、感染症対応を行った。
- ・ 職員2名、入居者5名 が陽性



【事故報告】

6/1 ~ 7/30

転倒 4 転落 2 誤薬・与薬のれ 5 件

6月

ヒヤリハット 22 件
事故報告 5 件

7月

ヒヤリハット 26 件
事故報告 6 件

Accident 報告

①

7/1

8:00

居室で転倒

事故発生直前の様子

朝食後「頭が痛い」と話し、居室に戻りベッドで横になっていた。

発生時状況、事故内容の詳細

センサーが鳴ってすぐ訪室し入口を開けると、シルバーカーを押しながら歩き始めたところで、バランスを崩し、床に膝をつき前に倒れ両手を床にいた。（四つ這いの姿勢）

発生時の対応

内容

職員が支えて起き上がり、ベッドに端座位になってもらった。「膝と肩が痛い。」と言われた。

確認すると右膝が赤く皮剥けあり、左膝も赤かった。右肩も少し皮が剥けていた。

BP128/69 P65 SAT93%

事故発生後の本人の状況(9:05)

センサーが鳴った。付き添いのもとシルバーカーを押して、リビングに来る。「膝は痛くない」と話していた。

「肩が痛い」と話していた。歩き方はいつもと変わらなかった。

Accident 報告

考えられる要因

- ①朝食後の頭痛の影響の可能性
- ②起き上りる、端座位、から立ち上り、歩き出しが早い場合にバランスを崩しやすい可能性
- ③端座位から歩き出しの動作の際に、身体を右にひねるような動きになりバランスを崩しやすい可能性
- ④起床前に1時間に1回トイレに起きていたことも影響があるかもしれない(3~4時間間隔が空くことが多い)

再発防止対策

- ①居室に付き添い、退室する際には【シルバーカーの位置】【木椅子の位置】【センサー】の3つを既定の位置に合わせる(1階事務所、黒パソコン上のコルクボードに2週間貼って共有)
- ②夜間トイレ回数が多く、眠れていないと感じられた場合には、センサー反応直後に急いで訪室する(素早く気付けるための対策は、対策を実施しながら再検討)
- ③ベッドによる擦過傷等を防ぐため、柵カバーなどを検討
- ④ベッド位置の変更は、変更することによるデメリットもあるため保留
 - ➡クローゼットへの動線が悪くなる
 - ➡居室もに戻った際、ベッドに掴まりにくく、手を離して歩く可能性が高まる

Accident 報告



再発防止対策

- ①居室に付き添い、退室する際には【シルバーカーの位置】【木椅子の位置】【センサー】の3つを既定の位置に合わせる（1階事務所、黒パソコン上のコルクボードに2週間貼って共有）
- ②夜間トイレ回数が多く、眠れていないと感じられた場合には、センサー反応直後に急いで訪室する（素早く気付けるための対策は、対策を実施しながら再検討）
- ③ベッドによる擦過傷等を防ぐため、柵カバーなどを検討
- ④ベッド位置の変更は、変更することによるデメリットもあるため保留
 - ➡クローゼットへの動線が悪くなる
 - ➡居室もに戻った際、ベッドに掴まりにくく、手を離して歩く可能性が高まる



【現在の業務の取り組みなど】

- 8/1から訪問診療がおゆみ在宅クリニックに変更
- 生産性向上推進委員会の発足（会社全体）
- 2025年度の外部評価は緩和の予定（自己評価のみ）
- 次回の運営推進会議は9月27(土)の予定



今後も理念に基づいた運営を行います